

月刊「省エネルギー」に掲載した「賛助会員からの声」をご紹介します。
賛助会員入会の動機や会員サービスについてのご意見を寄稿いただきました。
賛助会員入会ご検討にお役立てください。（部署名、所属、役職名等は掲載時の情報です。）

2020年10月号掲載 伊藤ハムデイリー株式会社 様 「安全・安心な商品の提供をミッションに、地球にやさしく環境に配慮する工場を目指す」

安全・安心な商品の提供を
ミッションに、地球にやさしく
環境に配慮する工場を目指す

伊藤ハムデイリー株式会社
小樽工場 ES 課課長 岩木 明
北海道地区会員（2020年4月入会）



<会社紹介>

今から25年前の1995年10月に北海道小樽市の石狩湾新港地域に伊藤ハムデイリー株式会社小樽工場として竣工しました。ボイラーの熱源には重油を使用していましたが、2014年10月に念願の都市ガスへのエネルギー転換を実現できました。その際、リスク管理やピーク電力カットを目的にコージェネレーションシステムを導入しました。2018年9月の北海道胆振東部地震を原因として発生したブラックアウト（大規模停電）では停電時に自動的にコージェネレーションシステムが稼働して事務所系統の電力を賄うことで情報伝達手段の確保やパソコンでの管理が継続できて大変助かりました。製造品目はハム・ソーセージを中心に生ハム・ドライ製品・サラミを北海道内はもとより全国に供給しています。当社は北海道・東北・北陸の

地域密着型の企業を目指し、これからもお客様のニーズにきめ細やかに対応し安全・安心な商品を提供します。

<入会の動機>

当工場は竣工後、増築を繰り返して現在に至り、それに伴いエネルギー使用量も増加してきました。第二種エネルギー管理指定工場等に指定されるのが確実になったのをきっかけに、今後どのような省エネ活動をしていったらいいのか？ どのような施策があるのか？ と悩んだ時に、すぐに省エネルギーセンターが頭に浮かび、賛助会員に入会しました。入会により得られる多くの貴重な情報を当工場内で水平展開し、省エネ活動を推進していきます。

<今後の抱負>

まずは基本に立ち戻り、身の丈に合った省エネ活動を推進進めたいと考えています。ハード面での改善はもちろん、それ以外にもソフト面では管理部門が旗振り役になって全員参加型の省エネ活動を実践していきます。そのためにも今後は省エネソリューションや省エネ人材の育成にも力を注いでいきたいと考えており、省エネルギーセンターからの情報を生かしながら、改善活動のPDCAサイクルを回していきます。ご支援をよろしくお願いいたします。

2021年1月号掲載 日本熱源システム株式会社 様 「省エネ性と環境性を両立した冷凍機の提案を」

省エネ性と環境性を両立した
冷凍機の提案を

日本熱源システム株式会社
代表取締役社長
原田克彦
本部地区会員（2020年10月入会）



<会社紹介>

弊社は冷凍機のメーカーとして1987年に創業し、これまでオフィスビルや公共施設をはじめとする大型施設の冷暖房用の大型ヒートポンプを製造してきました。近年は冷凍機の冷媒に使用するフロンガスがオゾン層破壊や地球温暖化に悪影響を与えることがわかり、CO₂やアンモニアといった自然冷媒の冷凍機の製造に力を入れていて、冷凍冷蔵倉庫や食品会社、化学会社など産業用分野にも納入先を広げています。

2019年度にはCO₂冷媒冷凍機の「スーパーグリーン」に対し、省エネ大賞の「中小企業庁長官賞」を頂戴し、省エネ性と環境性の両立を評価していただきました。また再

生可能エネルギーの商品として、真空管ヒートパイプ方式の太陽熱集熱器を扱っており、太陽の熱から真冬でも温水を作り出せる新たな省エネツールとして注目を集めています。これからも省エネ性と環境性を追求した製品作りに取り組んでいきます。

<入会の動機>

省エネ大賞受賞を機に省エネルギーセンターの活動について案内を受け、センターの運営の趣旨に賛同し入会を決めました。今後は会員活動を通じて、皆様の省エネに対するご要望や方向性を知る勉強の場にしたいと考えています。

<会員サービスについて>

会員向けの講座を受講することで、社員の知識向上を図ると共に省エネルギーの方向性を学んでいきたいと思えます。また月刊「省エネルギー」の広告を通じて皆様に弊社の製品を知っていただくと共に、冷凍機や太陽熱集熱器に関する新技術やシステムに関する技術論文も発表していきたいと考えています。